

些細なことでも喜びを感じ、
楽しみながら農業を営んでいます。



農業に懸ける情熱



1 就農したきっかけ

実家が農家だったため、幼い頃から農業が身近にある環境で育ちました。子どもの頃は、農作業を手伝うというよりも、タマネギのコンテナでかくれんぼをしたり、畑の中を走り回ったりと、農業のある暮らしを楽しんでいました。長男ということもあり、自然と農業の道に進むことになりましたが、「長男だから」という義務感からではなく、子どもの頃の楽しい思い出がたくさんあったからだと思います。

就農してからも、日々の仕事に喜びを感じながら、楽しく農業に取り組んでいます。



2 農業者として大変なこと

近年は雨や風など、天候に左右される思い通りに作業が進まないことにもどかしさを感じる場面が多くあります。特に今年は、昨年行ったほ場整備の影響でほ場が踏み固められ、透水性が低下するとともに、不安定な天候が続いたため、ほ場が乾かなくて、作業が思うように進まなく苦労しました。

昨年、父から経営を引き継ぎ、農業経営の責任を担うようになりました。農薬や肥料の注文量の判断や費用の計算など、慣れていない仕事も多く、苦労していますが、これも学びだと前向きに捉え、農業に取り組んでいます。



3 仕事をするうえで大切にしていること

楽しく農業することを特に大切にしています。農作業を手伝ってくれている子ども達は、農業を楽しいと感じてくれているみたいで「農家を継ぎたい」と話しています。これからも農業を楽しんでもらうために、些細なことでも褒め合うなど、全員が常に楽しい雰囲気の中で農作業ができるように心掛けています。

ほかにも、天候などの条件が揃った時、すぐに作業に取り掛かれるように作業前の段取りや下準備を入念に行っています。タイミシングを逃すと後に影響することが多いので、すぐ行動に移すことを心掛けています。

4 目指す農家像

常に心に余裕を持てる農家を目指しています。仕事を楽しいものはもちろん、思うように農作業が進まないときは二呼吸おくことでリフレッシュをし、頭を切り替えてから農作業に取り組んでいます。

これからも楽しく、効率的に農業を続け、安定した収量と品質を保てるように努めていきたいです。



人物 memo

岩見沢市上幌向町
黒田 勇太 さん(38歳)

妻の由香里さんと父の芳明さん、母の智津子さんの家族4人で約34haの農地に水稲や小麦、大豆を栽培。幼い頃から農業のある暮らしを楽しんでいたことから、自然と農業の道へ進みました。現在は、家族と協力し、楽しく前向きに農業に取り組み、効率よく安定した農業経営を目指しています。